



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 7月号
令和3年6月30日発行

<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>

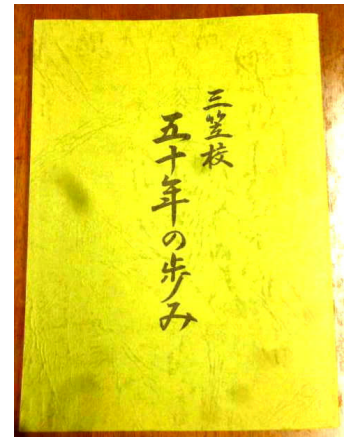


夏に思う



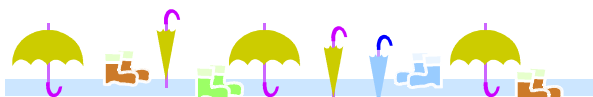
6月の下旬に、畑の先生に教えていただきながら、たんぼぼ学級、1年生、2年生の子どもたちが玉ねぎとエンドウ豆の収穫をしました。何度も給食に登場し、おいしくいただいています。普段、畑の作物を見る機会がない三笠っ子にとって、学校の敷地内に本格的な畑があることはとてもありがたいことです。今年はかぼちゃの苗もたくさん植えてくださっていて、たんぼぼ学級の子どもたちが毎日水やりをしながら生長を実感しています。

校長室に「三笠校 五十年の歩み」という冊子が保管されています。平成2年3月の発行で、発行者は「創立五十周年記念事業実行委員会」となっています。平成元年の秋に「三笠校創立五十周年記念式典」が挙行され、続いてこの「五十年記念誌」が発行されたようです。記念誌には、「学校の歩み」として、沿革史年表とともにその時々学校の様子が記されており、現在でも11月8日の創立記念集会で子どもたちに学校の歴史を話すときなど、この記念誌を参考にさせていただくことがあります。冊子の後半には、三笠小学校に勤務された先生方や卒業生の方から寄せられた三笠校での思い出やエピソードが、「回想の記」として掲載されています。



今年の5月の連休に、戦時中の三笠小学校の様子について調べたいことがあり、あらためてこの「回想の記」を読み返しました。新舞鶴小学校から分離独立した創立当時の様子、戦時中の様子、昭和28年の台風13号によって甚大な被害が出たこと、教職員一丸となって研究を進めていかれた様子などが、文章から伝わってきます。

「回想の記」の中に、戦時中の集団疎開について書かれたものがあります。私は、小学生の時に長崎源之助の「ゲンのいた谷」を読んで、集団学童疎開について知りました。強く心を動かされたことを今でも覚えています。その集団疎開がこの三笠小学校でも行われていたのです。昭和20年には、軍港であった舞鶴にもたびたび空襲警報が発せられるようになり、市街地の児童は親元を離れ田舎に疎開することになったのです。「回想の記」には、当時引率をされた先生、当時小学生だった方が、それぞれの視点で集団疎開を振り返って文章を寄せておられます。昭和20年の4月に、三笠小学校3年生以上の児童179名と引率の教職員9名が、丹後の神野、湊村の7か所に分かれて疎開生活を送ったことが記されています。出発の日、一番小さい3年生が何人もワーワー泣いたこと、列車が動き出すと、それまで離れてじっと見守っておられた保護者の方々が、列車の窓に向かって必死で追いかけていかれたこと、疎開先では毎日空腹で、浜ぐみや桑の実などを採って歩いたこと、栄養状態も衛生状態も悪い中、次々具合が悪くなる子どもが出て、引率の先生が7か所の疎開先を自転車で駆け回られたこと、父母に心配をかけまいと、みんなが手紙の書き出しには「ぼくは元気です。」と書いたことなど、読みながら今の子どもたちの姿と重なり、「こんな小さい子たちが…」と胸が詰まる思いがします。同時に、現在子どもたちが運動場を駆け回って遊ぶ姿、友達と楽しく笑い合う姿こそが、何よりも大切な、平和であってこそその姿だと、あらためて思うのです。



校長 小島 みどり